

心をひとつに 全力を出し切る

第46回滋賀県消防操法訓練大会 6位入賞



日野町消防団第2分団の皆さんの操法

7月31日(日)、滋賀県消防学校(東近江市)で第46回滋賀県消防操法訓練大会が開催されました。大会には日野町消防団第2分団(東桜谷・西桜谷地区)の選手の皆さんが小型ポンプの部に出場され、見事第6位入賞という成績を収められました。

県内の各代表チームが小型ポンプの部(15チーム)、ポンプ車の部(16チーム)にわかれ消防操法を披露されました。日野町消防団の選手の皆さんも長期の早朝訓練の成果を十分に発揮され、選手全員が心をひとつにし、精一杯見事な操法を披露されました。

今大会出場に向けた第2分団を中心とする日野町消防団は、一丸となった消防操法訓練の取り組みを通じ、小型ポンプの基本操作技術を習熟し、併せて、消防団員の結束がより強まりました。

出場された選手の皆さん、また、出場選手を支えた第2分団を中心とする日野町消防団員の皆さん大変お疲れさまでした。

おめでとございます。

【出場選手】

- (指揮者) 前澤 征希さん
- (1番員) 園城 久志さん
- (2番員) 奥村 昌博さん
- (3番員) 奥野 正之さん
- (補助員) 中野 雅人さん
東川 政敏さん

綿向雑感

日野町長 藤澤直広

秋晴れの下、今年も稲穂が豊かに実りました。滋賀県でも米の安全性を確認するため、放射性物質(セシウム)の検査をすることにしました。食の安心・安全は何よりも大切です。被災地では、米をはじめ農作物が作れず、作っても出荷できません。心が痛みます。

5月に田植えをし4か月。畦草を何度も刈りました。夏の太陽の下で汗ビッシヨリになりながら草刈機を使い、ひととき木陰で一服する、頬を撫でてゆく風が心地よく、冷たいお茶をゴクンと飲めば最高。トンボが目の前を飛び交い、セミの聲が林から聞こえてきます。

以前このあたりには、田んぼの間を縫うように小川が流れていました。所々に「ザアザア」(取水用の井堰)があり、シマミミズを餌に釣り糸を流せばフナやムツが釣れたものでした。圃場整備の後、魚影が見られなくなりましたが、最近ムツがたくさん泳ぐよう

になりうれしく思います。かつては川から田んぼにポンプで「水揚げ」もしました。水不足のときは、村が当番制で水を入れることもあり、「番水」と呼び、決してルール破りは許されず、違反すれば田んぼの土が白くなるほど干上がっても水を入れられないという「掟」がありました。逆に、「番水」でなければ、「天下御免」で我田引水もOKでした。今では、水利も便利になりました。

最近の悩みは獣害です。今年は、集落ぐるみでネットフェンスを設置する事業をたくさん実施いただいています。日野町で長さ約73kmにもなります。大変な重労働ですがケガなどされないようお願いします。農家にとって、こうして大事に育てた米の収穫はうれしいものです。ところが、今年から、米の「先物取引」が解禁されました。主食の米が投機の対象にされることに疑問を感じます。何でもかんでも市場原理にまかせればいいわけではありません。3・11あの日から半年が経とうとしています。「市場原理万能の社会」から脱却し「誰もが幸せになる社会」をつくらなければなりません。